

第 14 回けやきの杜こども作文コンクール 入賞者・金賞作品のご紹介

国分寺市内の小学校 5・6 年生のみなさんを対象に「あなたが考える、障がい者も高齢者も暮らしやすい国分寺」というテーマでの作文を募集したところ、192 名からのご応募がありました。いずれも素晴らしい作文ばかりでしたが、厳正なる審査をさせていただき、9 名の入賞作品を選ばせていただきました。今年もたくさんのご応募ありがとうございました。

以下、入賞者の皆様と、金賞の作品をご紹介します。

金賞 国分寺市立第八小学校 高 間至さん

銀賞 国分寺市立第五小学校 渡辺 結さん
国分寺市立第五小学校 福田 駿斗さん
国分寺市立第五小学校 鏡 心稀さん

銅賞 国分寺市立第二小学校 是永 智美さん
国分寺市立第五小学校 渡邊 麻里子さん
国分寺市立第十小学校 生澤 茉帆さん
国分寺市立第五小学校 森岡 千尋さん
国分寺市立第五小学校 森山 珠愛さん

第14回けやきの杜こども作文コンクール 金賞作品

「思いやりのあふれる市」を目指して

国分寺市立第八小学校
高 閻至

私は、障がい者も高齢者も暮らしやすい国分寺には思いやりの心が何よりも重要だと思います。一人一人が思いやりの心を意識することで、市全体が大きく変わるのではないのでしょうか。

私がこのように考える理由は、いくら福祉が整っていても周りの人たちの思いやりのない限り、その設備の役割を果たすことはできないと思ったからです。例えばバスの優先席に人が座っていてそこへ障がい者や高齢者が乗ってきたとします。いくら優先席があろうと、座っている人が「ゆずってあげよう。」という思いやりの心がなければ「誰もが使いやすいバス」にはなりません。これでは設備の意味がありません。なので私は、思いやりの心を全員がもつことが大切だと考えました。

「思いやりの心」は障がい者や高齢者を問わず、どこのどんな人でも暮らしやすくなる一番の近道です。もちろん交通を整えたり様々な設備を取り入れたりすることも重要です。しかし、これらは思いやりのあるということを前提として作られています。思いやりがあるからこそ「本当の福祉」が完成すると思います。

私は、この作文で市全体を変えられるとは思っていません。けれど、一人でも多くの人がこの作文をきっかけに動いてくれるとうれしいです。また、私も「思いやりのあふれる市」をつくっていく一員として暮らしていけるようにがんばりたいと思います。近いうちに国分寺市が「思いやりのあふれる市」になることを期待しています。